

局 施 策 評 価 票

平成 **21** 年度実施施策

A時点: -	B時点: -	C時点: 22. 7月

局名	病院局
----	-----

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	安心して子どもを生み育てることができる環境の整備

担当局 / 総務担当課名	病院局	総務課
連絡先	582 - 3051	

21年度計画

-1-(1)-

施策名	母子が健康に生活できる環境づくり
-----	------------------

施策の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	市民が安心して子どもを産める体制や救急医療の24時間365日体制を維持していく。
	その結果、実現を目指す取組みの方針名	安心して子どもを生み育てることができる環境の整備

施策の成果	成果指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)	現状値		計画	平成21年度	目標値	
		総合周産期母子医療センターにおける医療体制及びNICU・MFICU病床数維持	年度			医療体制・病床数維持	年度
	市立医療センターの総合周産期母子医療センターは、市内の周産期医療の中核を担っており、周産期医療を現在の高い水準で維持していくことが必要。	現状値		実績	維持	目標値	周産期医療体制及びNICU・MFICU病床数維持
				達成度	100.0 %		
	小児救急センター(市立八幡病院に併設)の医療体制維持	年度		計画	医療体制維持	年度	平成25年度
	市内の小児救急医療の中核を担っており、小児救急医療体制を現在の高い水準で維持していくことが必要。	現状値		実績	維持	目標値	小児救急医療体制の維持
				達成度	100.0 %		
		年度		計画		年度	
		現状値		実績		目標値	
				達成度	%		
コスト	A時点 - B時点 - C時点 22.7月 [21年度:執行額]			事業費	2,236,311 千円	構成事業にかかった人件費の目安(21年度)	
				うち一般財源	755,612 千円	1,613,815 千円	

局施策に対する担当局の評価

局施策の評価	21年度評価	主な分析理由
成果指標の結果を踏まえ、構成事業の評価結果なども考慮し評価を行う。	A	市立医療センターの総合周産期母子医療センターにおいて、ハイリスク分娩患者の受け入れを行うとともに、必要な設備の整備も図っている。また、八幡病院及び小児救急センターが市内の小児医療の拠点としての役割を果たしており、その機能強化についても着実に取り組んでいる。
今後の局施策の方向性	現在の周産期医療体制の確保・充実及び小児救急医療体制を高い水準で維持していくことが必要不可欠であり、今後も必要な設備の整備や機能強化に着実に取り組んでいく。	

【局施策評価】 A:大変良い状況にある B:概ね良い状況にある C:概ね良い状況とまでは言えない D:不十分な状況にある

評価担当部署の意見

適切な評価
 下記のとおり

各成果指標が現在の高い水準を維持することとしていますが、他都市の水準と比較をするなど、いかに高いレベルかを示す必要があると考えます。

施策名 母子が健康に生活できる環境づくり

構成事業名	事業費		事業にかかった 人件費の目安 (21年度)	経費分類 裁量的経費 義務的経費 特別経費(重点) 特別経費(臨時)	今後の方向性			
	C時点[21年度:執行額]				21年度			21年度
総合周産期母子医療センターの運営・小児救急センターの運営			2,236,311 千円	1,613,815 千円				ウ
事業費のうち一般財源			755,612 千円					
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				
			千円	千円				
事業費のうち一般財源			千円	千円				

局施策全体のコスト	21年度	
	事業費	人件費(目安)
	2,236,311 千円	1,613,815 千円
施策全体の事業費のうち一般財源	755,612 千円	

局施策の
21年度評価

A

【局施策評価】
A: 大変良い状況にある
B: 概ね良い状況にある
C: 概ね良い状況とまでは言えない
D: 不十分な状況にある

【事業の今後の方向性】 A: 事業の見直しを図ることが可能 I: 休止・廃止を検討 U: 現状のまま進めることが適当 E: 終了

事業評価票

平成21年度実施事業	新規	継続

A時点: -	B時点: -	C時点: 22.7月

担当局/課	病院局	業務課
連絡先	3055	

基本計画	柱	人を育てる
	大項目	子育て・教育日本一を実感できる環境づくり
	取組みの方針	安心して子どもを生み育てることができる環境の整備
	主要施策	母子が健康に生活できる環境づくり

関連計画	北九州市病院事業経営改革プラン
事業期間	平成19年度～
経費区分	

-1-(1)-

事業名	総合周産期母子医療センターの運営・小児救急センターの運営
-----	------------------------------

事業の概要	何(誰)をどのような状態にしたいのか。	[総合周産期母子医療センター(市立医療センター内)] ・24時間体制で出生前から出産後まで母子に対する専門的な医療を提供する(医療体制の維持)。 ・新生児集中治療室(NICU9床)、母体・胎児集中治療室(MFICU6床)の病床数を維持する。 [小児救急センター(市立八幡病院に併設)] ・1次(初療)から3次(重篤)までの救急医療の24時間365日体制を維持する。		
	その結果、実現を目指す施策名と成果	施策名	母子が健康に生活できる環境づくり	成果

目的実現の為に実施する内容	実施工程	当初計画	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	計画変更理由			
		現状	総合周産期母子医療センターの運営 小児救急センターの運営								
	実施状況	成果・活動指標 (上段:指標名、下段:指標設定の考え方)						平成21年度	目標		
		総合周産期母子医療センターにおける医療体制及びNICU・MFICU病床数維持						計画	医療体制・病床数維持	年度	平成25年度
		市内の周産期医療の中核を担っており、周産期医療を高い水準で維持していくために必要。						実績	維持	内容	周産期医療体制及びNICU・MFICU病床数維持
小児救急センターの医療体制維持						達成度	100.0 %	年度	平成25年度		
コスト	市内の小児救急医療の中核を担っており、小児救急医療体制を高い水準で維持していくために必要。						計画	医療体制維持	内容	小児救急医療体制の維持	
	A時点 - B時点 - C時点 22.7月(21年度:執行額)						事業費	2,236,311 千円	事業にかかった人件費の目安(21年度)		
							うち一般財源	755,612 千円	1,613,815 千円		
	単年度計画						総合周産期母子医療センター及び小児救急センターの医師・看護師・医療技術員等の人件費を記載				

【事業の実施結果・進捗状況の確認】

実施結果	21年度に実施した結果、当初計画(実施工程)に対する進捗状況はどうか。 [総合周産期母子医療センター] ・引き続き、24時間体制で出生前から出産後まで母子に対する専門的な医療を提供した。 ・全国的に産婦人科医が不足する中で、昨年度に引き続き正規8名体制を維持することができた。 ・新生児患者管理装置を新規整備した。 [小児救急センター] ・引き続き、1次(初療)から3次(重篤)までの救急医療の24時間365日体制を維持した。 ・八幡病院小児病床を79床から94床に拡充した。
------	---

【事業の再検証】

評価	有効性 この事業は施策の実現に対し、効果があったのか。	4	[総合周産期母子医療センター]24時間体制で高リスク分娩や高度治療が必要な新生児に対する専門的な医療を提供した。 [小児救急センター]軽症から重症患者まで、24時間体制で総合的に救急医療の提供を行った。
	経済性・効率性 同じ効果をより低いコストで得られないか、または、同じコストでより高い効果を得られないか。	2	24時間体制で周産期及び小児救急医療を提供するため、収支差額については、市から一般財源の繰り入れを行っている。
	適時性 今実施しなかった場合、施策実現に対する影響はどうか。	4	近年の医師不足により、産婦人科・小児科標榜の医療機関が減少している中、市内の周産期医療・小児救急医療の中核を担っており、実施しなかった場合は医療体制に重大な影響を及ぼすことになる。
	市の関与の必要性 実施主体として市が適切なのか、市の関与をなくすことはできないのか。	4	市内唯一の総合周産期母子医療センター、小児救急センターを運営しており、本市の産科連携体制及び小児救急ネットワークの中核を担っている。
今後の方向性	評価結果を検証した上で、今後の事業の方向性(いつから何をどうするのか)を決定する。 ア:事業の見直しを図ることが可能 イ:休止・廃止を検討 ウ:現状のまま進めることが適当 エ:終了	ウ	市内の周産期医療体制・小児救急医療体制を高い水準で維持していくためには必要不可欠である。